

令和元年度第1回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

- 日 時： 令和元年6月19日（水） 10:00～11:53
- 場 所： 自然科学研究機構及び情報・システム研究機構合同会議室
- 出席者： 荒木、大塚、岸上、木部、キャンベル、窪田、久留島、小松、佐藤（信）、田窪、谷川、谷口、野家、林部、平井、平川、三田村、安成、吉田（和）、劉の各評議員
陪席者： 李理事、小泉監事、山本事務局長、大崎機構長特別顧問
事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研及び地球研の各管理部長、本部事務局の総務課長、企画課長、財務課長、施設課長、企画課課長補佐、財務課課長補佐、その他関係職員

○ 概 要：

議事に先立ち、機構長から新たに就任した評議員等の紹介があった。また、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

議 題：

（議事概要）

（1）平成30年度第4回議事概要について（資料1）

機構長から、平成30年度第4回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

（審議事項）

（1）平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について（資料2）

岸上理事から、資料2に基づき、平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり、審議の結果、了承された。なお、本件に係る今後の取り扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

また、本件に関し、以下の意見があった。

- ・ 研究奨励制度の導入等も含め、若手研究者の育成の強化を検討してはどうか。若手が将来への展望を持つためには、意図的に活躍の場をつくることも必要ではないか。
- ・ 人文知コミュニケーションには、アウトリーチ活動を通して世間一般へアピールする機会を増やし、研究を深めると同時に基盤を広げる活動をしてほしい。
- ・ 自身の研究では理系の学生の協力を得て新しいアプローチを行っているが、発信の場が限られており、機構にはこうした研究を発信する役割を担ってもらいたい。
- ・ 年俸制教員について、研究業績はどのように評価しているのか。運営費交付金の一部を傾斜配分する動きがあるが、前もって対応の準備をしておくことが大事だと考えている。

（2）令和2年度概算要求について（資料3）

窪田理事から、資料3に基づき、令和2年度概算要求について説明があり、審議の結果、了承された。

なお、本件に係る今後の取り扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

（報告事項）

（1）総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について（資料4）

窪田理事から、資料4に基づき、総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について報告があった。

（2）総合情報発信センターにおける実施事業について（資料5）

佐藤理事から、資料5に基づき、総合情報発信センターにおける実施事業について報告があつ

た。

これを受け、以下の意見があった。

- ・ 例えは朗読と映像を組合せたイベント等、中高生に向けた啓蒙的な活動を企画してほしい。
- ・ 人文知コミュニケーションについて、サイエンスコミュニケーションのようにサイエンスカフェ、サイエンスアゴラを開催するなど、活動の幅を広げてほしい。

(3) 人文系研究評価システム検討委員会における検討状況について（資料6）

窪田理事から、資料6に基づき、人文系研究評価システム検討委員会における検討状況について報告があった。

これを受け、以下の意見があった。

- ・ 国大協の総会で指標の例示があったが、どのように受け止めているか。
→あくまでも例であると捉えている。4機関としては、共通指標ではなく、それぞれの状況をきちんと記述できる項目を追加するような形で要望を出そうと考えている。
- ・ 大学共同利用機関に対して使用するものとして人文系の評価指標を提示した場合、他大学への評価等に流用される恐れがあるのではないか。
→機構としても同様の懸念を抱いており、共通評価指標に関しては、意見表明を行なわないことを考えている。

(4) ネットワーク型基幹研究プロジェクト「ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用」について（資料7）

窪田理事から、資料7に基づき、ネットワーク型基幹研究プロジェクト「ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用」について、同プロジェクトを終了する旨、報告があった。

(5) 基幹研究プロジェクト中間評価について

窪田理事から、資料8に基づき、基幹研究プロジェクトの中間評価について報告があった。

以上